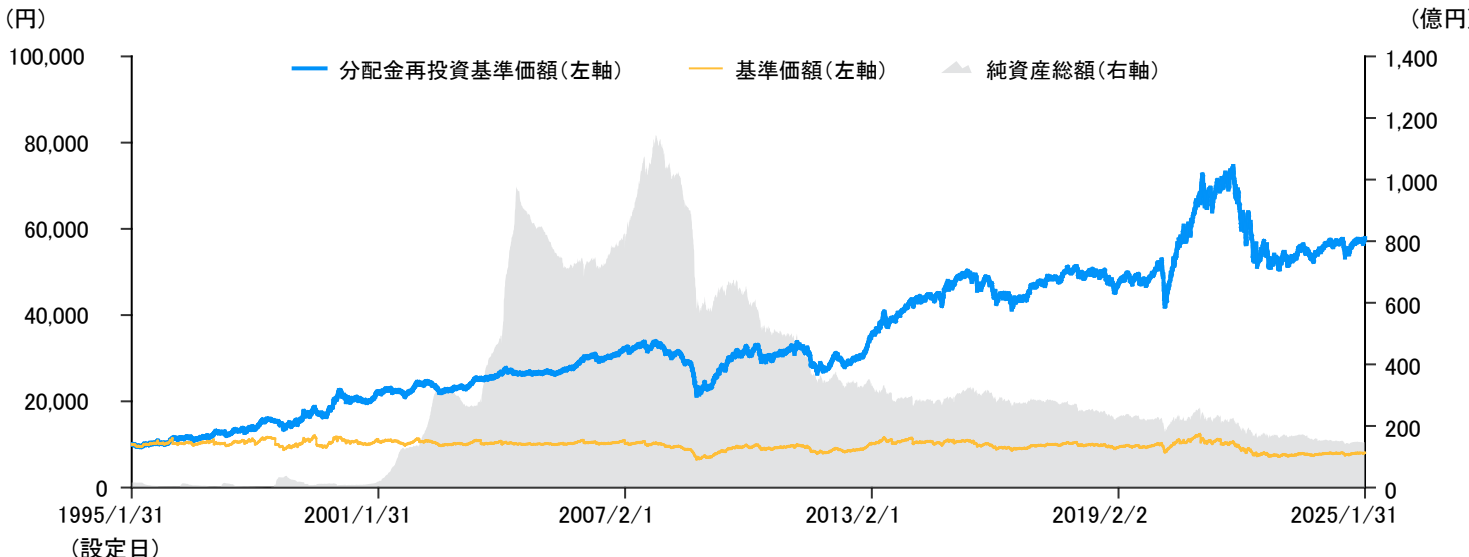


JPMグローバル・CB・オープン'95

追加型投信／内外／その他資産(転換社債)

基準価額・純資産総額等の推移



騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
■ ファンド	0.7%	1.2%	4.2%	3.3%	-4.9%	13.2%	478.5%

・基準価額は信託報酬控除後です。分配金再投資基準価額は、税引前分配金を分配時に再投資したもとして計算しています。信託報酬については、後記の「ファンドの費用」をご覧ください。

・騰落率は、分配金再投資基準価額にて計算しています。騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

ファンド情報

基準価額	8,038円
純資産総額	147.1億円

ポートフォリオ情報

銘柄数	94
資産構成比率	100.0%
有価証券組入比率	96.7%
現金等	3.3%

過去5期の分配金実績

第53期	2023年1月	30円
第54期	2023年7月	30円
第55期	2024年1月	40円
第56期	2024年7月	30円
第57期	2025年1月	40円
設定来累計		20,850円

・「ポートフォリオ情報」における比率は純資産総額比です。

・売買等の計上タイミングの影響や市場環境の急激な変動により、一時的に有価証券組入比率が100%を超える場合があります。

・分配金は、1口当たり、税引前です。

・上記は過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。また、必ず分配を行うものではありません。

ご参考: 基準価額の変動要因(1ヵ月)

有価証券	為替	分配金	その他	合計
154円	-90円	-40円	-7円	17円

・基準価額の変動要因は弊社独自の見解に基づいて行った試算です。従いまして、実際の基準価額の変動とは必ずしも一致していない場合があります。

・小数点以下の数字の影響により、内訳と合計欄が一致しない場合があります。

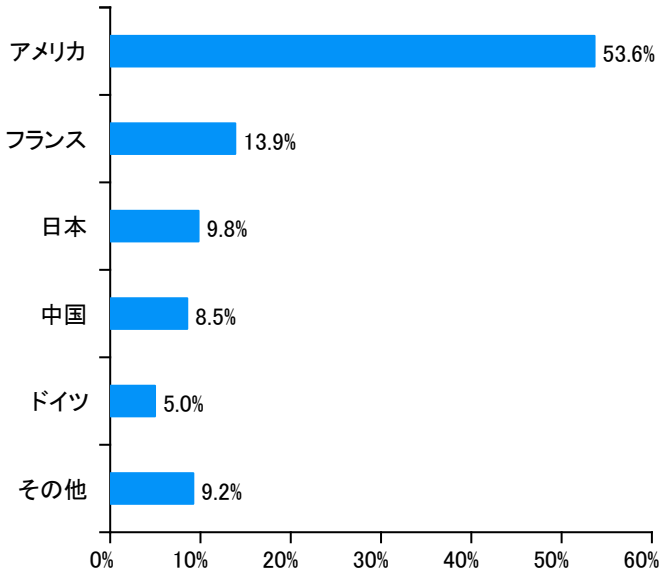
・その他には信託報酬などが含まれます。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

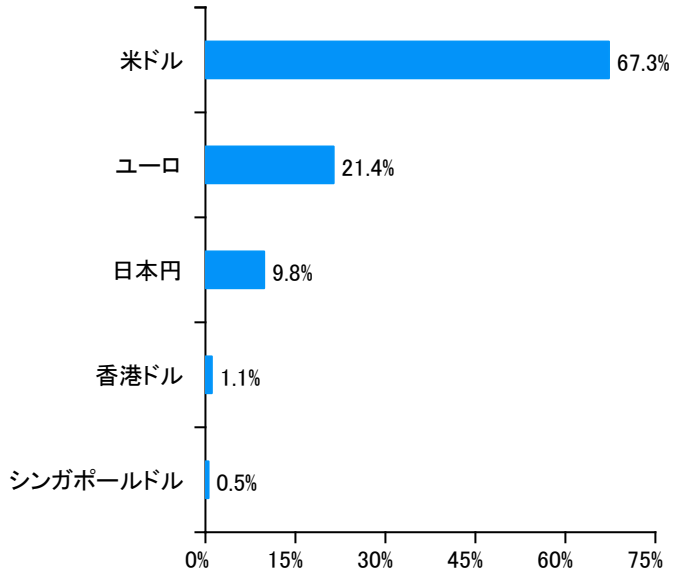
JPMグローバル・CB・オープン'95

ポートフォリオの状況

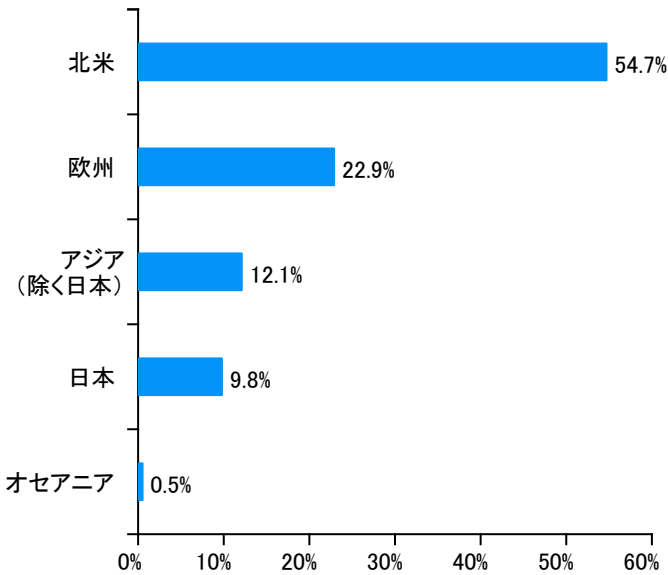
国別構成比率



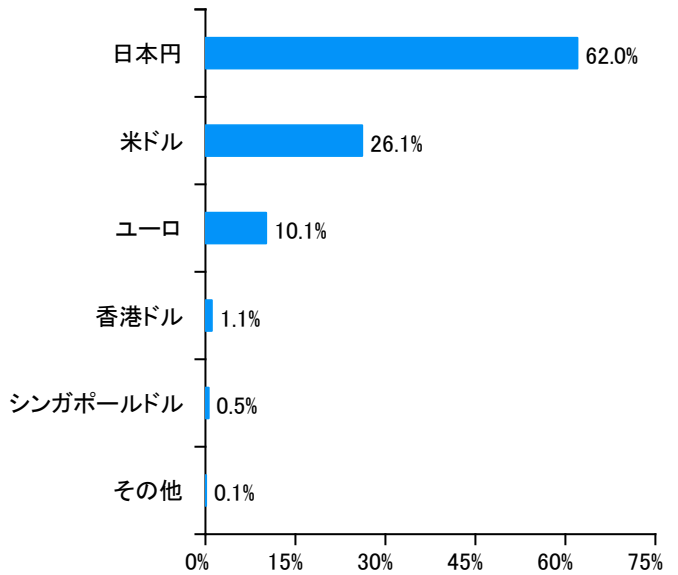
通貨別構成比率(為替ヘッジ前)



地域別構成比率



通貨別構成比率(為替ヘッジ後)



- ・国別、地域別、通貨別(為替ヘッジ前)の比率は組入有価証券を100%として計算しています。通貨別(為替ヘッジ後)については弾力的に行った為替予約や預金等を含めた実質的な比率をいい、当社システムの情報に基づいて対純資産で計算しています。比率は四捨五入の関係で合計が100%とならない場合があります。
- ・国別は各銘柄(但しCB等(CB・他社株転換社債・優先証券・ワラント債等を含みます)については転換対象とする株式等)につき当社および当社グループが判断した投資国に基づいて分類しています。
- ・地域別は各銘柄(但しCB等については転換対象とする株式等)につき当社および当社グループが判断した投資国に基づいて分類しています。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

JPMグローバル・CB・オープン'95

ポートフォリオの状況

組入上位10銘柄(2024年12月末現在)

	銘柄名	クーポン	償還日	国	業種	通貨	比率
	銘柄紹介						
1	SOUTHERN CO 3.875% CB	3.875%	2025/12/15	アメリカ	公益事業	米ドル	2.8%
	サザン(The Southern Company)は公益事業持株会社。子会社を通じて、米国南東部で発電、電力卸売・小売に従事する。無線通信、双方向ラジオ、電話、ポケットベル、インターネットアクセス・サービス事業も展開するほか、光ファイバー・ソリューションの卸売も手掛ける。						
2	UBER TECH 0.875% 2028 CB	0.875%	2028/12/1	アメリカ	資本財・サービス	米ドル	2.7%
	ウーバー・テクノロジーズ(Uber Technologies Inc)は配車サービス会社。道路交通、ナビゲーション、相乗り乗車、および決済処理ソリューション向けにアプリの開発を手掛ける。世界各地で事業を展開。						
3	ON SEMICOND 0.5% CB	0.500%	2029/3/1	アメリカ	情報技術	米ドル	2.6%
	オン・セミコンダクター(ON Semiconductor Corporation)は半導体メーカー。データ管理および電力管理用のアナログ、標準ロジック、および単機能半導体を提供。ICおよびアナログICなどの製品を提供するほか、さまざまな表面実装および標準パッケージの単機能半導体も提供する。						
4	SAFRAN 0% SAF CB	0.000%	2028/4/1	フランス	資本財・サービス	ユーロ	2.4%
	サフラン(Safran)は航空宇宙・防衛用システム機器販売会社。航空機およびヘリコプター、打ち上げロケット、着陸およびブレーキシステム、ナセル、オプトエレクトロニクス、航空電子工学、発射機推進、生体認証機器、爆発物検出、痕跡分析製品などを提供する。世界各地の航空・防衛業界向けに事業を展開。						
5	SCHNEIDER ELE1.97% SUFPCB	1.970%	2030/11/27	フランス	資本財・サービス	ユーロ	2.4%
	シュナイダーエレクトリック(Schneider Electric SE)は電力設備メーカー。主な製品は、自動車用充電設備、住宅用セキュリティ用品、照明スイッチ、アクセスコントロール、センサー、バルブ、サーキットブレーカー、ケーブル、付属品、信号装置、ヒューズ、モータースタータ、変圧器など。世界各地で事業を展開。						

・ブルームバーグ、各社ホームページ等をもとに、J.P.モルガン・アセット・マネジメント作成。

・組入上位10銘柄については、開示基準日がその他の情報と異なります。

・比率は対純資産で計算しています。

・銘柄名欄の「CB」は転換社債、「EB」は他社株転換社債、「WRT」は新株予約権証券、「PFD」は優先証券を表します。

・国は各銘柄(但しCB等については転換対象とする株式等)につき当社および当社グループが判断した投資国に基づいて分類しています。

・CB等の業種は転換対象とする株式等の情報に基づいています。

・業種はGICS分類に基づき表示していますが、当社および当社グループの判断に基づき分類したものが一部含まれます。

・上記は個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、ファンドへの組入れを保証するものではありません。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

JPMグローバル・CB・オープン'95

ポートフォリオの状況

	銘柄名	クーポン	償還日	国	業種	通貨	比率
	銘柄紹介						
6	BARCLAYS BK 1% MSFT EB	1.000%	2029/2/16	アメリカ	情報技術	米ドル	2.3%
	発行体はバークレイズ銀行 (Barclays Bank PLC) であり、転換先のマイクロソフト (Microsoft Corporation) はソフトウェア会社。アプリケーション、追加クラウド・ストレージ、高度セキュリティソリューションを提供する。世界各地で事業を展開。						
7	LIVE NATION 3.125% CB	3.125%	2029/1/15	アメリカ	コミュニケーション・サービス	米ドル	2.2%
	ライブ・ネーション・エンターテインメント (Live Nation Entertainment Inc.) はイベント会社。コンサートを企画・製作し、インターネットでチケットを販売する。チケット発券サービスを提供。主な顧客は、屋内/屋外競技場、プロスポーツ・フランチャイズ/リーグ、大学スポーツチーム、コンサートホール、博物館、劇場など。世界各地で事業を展開。						
8	STMICRO 0% B CB	0.000%	2027/8/4	フランス	情報技術	米ドル	2.0%
	STマイクロエレクトロニクス (STMicroelectronics N.V.) は半導体メーカー。半導体ICや個別装置の設計、開発、製造、および販売に従事。同社の製品は、電気通信や家電製品、自動車、コンピューター、工業などの分野で使用されている。北米や欧州、アジア太平洋地域の顧客に製品を提供。						
9	FIVE9 0.5% CB	0.500%	2025/6/1	アメリカ	情報技術	米ドル	1.8%
	ファイブ9 (Five9 Inc) は、クラウド・コンタクト・センター向けソフトウェア会社。リアルタイム・時系列レポート、録音、品質モニタリング、従業員管理、CRMの統合を提供する。世界各地で事業を展開。						
10	高島屋 0% DEC28 CB	0.000%	2028/12/6	日本	一般消費財・サービス	日本円	1.8%
	高島屋は、大阪、東京、京都を中心に海外でも百貨店を経営。また、輸出入業および卸売業、これらの業務に付随する製造業ならびに加工業を行う。同社は、主に衣料品、食料品、芸術品、日用雑の販売を行い、また不動産業も行う。						

- ・ブルームバーグ、各社ホームページ等をもとに、J.P.モルガン・アセット・マネジメント作成。
- ・組入上位10銘柄については、開示基準日その他の情報と異なります。
- ・比率は対純資産で計算しています。
- ・銘柄名欄の「CB」は転換社債、「EB」は他社株転換社債、「WRT」は新株予約権証券、「PFD」は優先証券を表します。
- ・国は各銘柄(但しCB等については転換対象とする株式等)につき当社および当社グループが判断した投資国に基づいて分類しています。
- ・CB等の業種は転換対象とする株式等の情報に基づいています。
- ・業種はGICS分類に基づき表示していますが、当社および当社グループの判断に基づき分類したものが一部含まれます。
- ・上記は個別銘柄の推奨を目的として示したものではなく、ファンドへの組入れを保証するものではありません。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

JPMグローバル・CB・オープン'95

運用状況等と今後の運用方針

市場概況

1月の世界のCB市場は上昇しました。当月は、米新政権への期待が支援材料となったほか、欧州圏の経済指標が回復の兆しを示したことで、グローバルでCB市場は上昇しました。

当月、世界のCB市場動向を表わすFTSEグローバルCBインデックスは、米ドルベースでプラスとなりました。各国・地域のCBインデックスでは、全ての地域でプラスとなりました。

運用状況

1月の当ファンドの基準価額(税引前分配金再投資)は上昇しました。当月は、保有銘柄が上昇したことが、基準価額を押し上げました。セクター別ではコミュニケーションや資本財がプラスに寄与したものの、基礎素材がマイナスに寄与しました。国・地域別では、全ての地域がプラスに寄与しました。株価連動性については、前月末の水準から上昇しました。

市場見通しと今後の運用方針

2025年における世界株式市場の見通しは、経済状況、市場の動向、地政学的要因の複雑な相互作用によって形成されています。今後12~18ヶ月間において、グローバルで景気拡大が続くと見込んでおり、インフレはやや粘着性があるものの、中央銀行の金融政策への影響は限定的と見ています。一方で、米国の国内外に対する政策や、他地域が米国の政策に応じて実施する政策については高い不確実性があります。このような政治的な不透明感に加えて、引き続きテクノロジーの進展や新興市場の成長、産業全体の構造変化が見られる中、投資家はより慎重な投資が求められ、企業レベルでの分析や銘柄選択の重要性が高まっています。

政治動向など一部不透明感が残るものの、米国経済は底堅さを示しており、インフレと金利の低下によりソフトランディングが見込まれています。しかし、米国外の経済活動はまちまちです。米新政権が欧州やアジアなどに対して強硬な貿易措置を行った場合、同地域に経済的な悪影響を及ぼす可能性があります。企業業績の観点では、2025年も引き続き堅調であると見ています。全体としては、グローバルで約12%の利益成長が予想されており、米国や一部の新興市場が牽引すると予想しています。産業ごとには異なるトレンドが見られ、例えば半導体業界はAI(人工知能)関連の支出が急増している一方で、産業および自動車の需要は低調です。地域ごとでは、新興市場、とりわけ中国のマクロ環境は複雑で、経済見通しが低調である一方で、最近の刺激策による上昇が見られるなど、先行きが不透明です。また、今後は大型テクノロジー株式への過度な集中は一服し、より広範なセクター、銘柄に新たな収益機会が生まれることが示唆されています。

CBは様々な理由から投資妙味が高い資産と考えます。第一に、最近の金利上昇、地政学的な緊張、インフレの高まりによる市場の変動性の高まりなどを背景とした資産クラスの割安感から、新規投資の好機となっています。第二に、CBは債券の特性により下落率が抑制される傾向にあることに加え、一般的な債券よりもスプレッドが大きく、デュレーションも短くなっています。また、CBにはオプション(株式に転換する権利)が組み入れられているため、デュレーション・リスクが大幅に低減されます。金利が上昇すると、債券部分は低下しますが、オプション部分の評価が上昇します。

当ファンドの運用においては十分に地域や業種の分散を図っていく方針です。為替ヘッジについては当ファンドの基準価額の下振れを抑えることに重点を置き、株価連動性と共に今後も随時見直しを実施して調整していく方針です。

・上記運用状況の基準価額の変動については、前記の「騰落率」をご覧ください。

※上記は、作成時点のJ.P.モルガン・アセット・マネジメントの見解であり、予告なく変更されることがあります。本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1 世界各国のCB(転換社債)を主要投資対象として運用を行い、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をはかることを目的とします。
- 2 CBへの投資にあたっては、投資地域の分散をはかりながら、価格水準、株価との連動性等の投資効率、発行企業の成長性および安定性等を総合的に分析し、魅力的な銘柄を選定します。
- 3 弾力的に為替ヘッジを行うことにより、主として為替変動による基準価額の下落リスクを軽減させることを目指します。
- 4 JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド(英国法人)に運用を委託*1します。

- J. P. モルガン・アセット・マネジメントのグローバルなネットワークを活用し、運用を行います。

※J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

*1 為替ヘッジを含みます。

・資金動向、市況動向、経済情勢、投資環境等の変化に対応するために、やむを得ない事情がある場合には、上記にしたがった運用が行えないことがあります。

ご購入の際は、「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。

投資リスク

ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。
投資信託は元本保証のない金融商品です。投資信託は預貯金と異なります。

基準価額の変動要因

ファンドは、主に世界各国のCBに投資しますので、以下のような要因の影響により基準価額が変動し、下落した場合は、損失を被ることがあります。下記は、ファンドにおける基準価額の変動要因のすべてではなく、他の要因も影響することがあります。

株価変動リスク	株式の価格は、政治・経済情勢、発行会社の業績・財務状況の変化、市場における需給・流動性による影響を受け、変動することがあります。CBの価格は、転換先株式の価格変動の影響を受けるため、株式と同様の要因により、変動することがあります。
信用リスク	CBの発行体の財務状況の悪化や倒産、所在する国家の政情不安等により、元本・利息の支払いが遅れたり、元本・利息が支払えない状態になった場合、またはそれが予想される場合には、当該CBの価格が変動・下落することがあります。
金利変動リスク	金利の変動がCBの価格に影響を及ぼします。一般に、金利が上昇した場合には、CBの価格が下落します。
為替変動リスク	為替相場の変動が投資資産の価値の変動に影響を与えることがあります。ファンドは、為替ヘッジを弾力的に行いますが、ヘッジを行った場合でも為替変動リスクを完全にヘッジすることはできません。
流動性リスク	CBは市場での売買高が少ない場合があり、注文が成立しないこと、売買が成立しても注文時に想定していた価格と大きく異なることがあります。

その他の留意点

- クーリングオフ制度(金融商品取引法第37条の6)の適用はありません。
- ファンドの流動性リスクが顕在化した場合、ファンドの基準価額が下がること、ファンドが他の投資機会を活用できなくなること、またはファンドが所定の期間内に換金代金の支払いに応じられないことがあります。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、決算期中に発生した収益(経費^{*1}控除後の配当等収益^{*2}および有価証券の売買益^{*3})を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも決算期中におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

*1 運用管理費用(信託報酬)およびその他の費用・手数料をいいます。

*2 有価証券の利息・配当金を主とする収益をいいます。

*3 評価益を含みます。

お申込みメモ

購入単位	1口単位とします。
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額とします。
換金単位	1口単位とします。
換金価額	解約の場合は換金申込日の翌営業日の基準価額とします。 買取の場合は換金申込日の翌営業日の基準価額から、販売会社にかかる源泉徴収税額に相当する金額を差し引いた金額とします。(当該源泉徴収税額に相当する金額の控除は免除される場合があります。) 換金時に手数料はかかりません。
換金代金	原則として換金申込日から起算して4営業日目から、販売会社においてお支払いいたします。
申込締切時間	原則として午後3時までとします。ただし、販売会社によっては受付時間が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 (2024年11月5日以降) 原則として、購入・換金の申込みにかかる、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
信託期間	1995年1月31日から2044年1月30日(休業日の場合は翌営業日)までです。(設定日は1995年1月31日です。)
決算日	毎年1月30日および7月30日(休業日の場合は翌営業日)です。
収益分配	毎年2回の決算時に委託会社が分配額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないことがあります。
課税関係	課税上の取扱いは、「公募株式投資信託」となります。 「公募株式投資信託」は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。このファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。また、配当控除および益金不算入制度は適用されません。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。 上記は2024年8月末現在のもので、税法が改正された場合等には変更される場合があります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	手数料率は 3.3%(税抜3.0%) を上限とします。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 (購入時手数料=購入価額×購入口数×手数料率(税込))
信託財産留保額	かかりません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に対して 年率1.683%(税抜1.53%) がかかり、日々の基準価額に反映されます。 信託財産に日々費用計上し、決算日および償還日の翌営業日に信託財産中から支払います。
その他の費用・手数料	「有価証券の取引等にかかる費用*」「外貨建資産の保管費用*」「信託財産に関する租税*」「信託事務の処理に関する諸費用(ファンド監査費用および信託事務の処理に関する諸費用を除きます。)、その他ファンドの運用上必要な費用*」「ファンド監査費用および信託事務の処理に関する諸費用(純資産総額に対して年率0.022%(税抜0.02%)、上限年間330万円(税抜300万円))」 *運用状況等により変動し、適切な記載が困難なため、事前に種類ごとの金額、上限額またはその計算方法等の概要などを具体的に表示することができないことから、記載していません。

ファンドの費用の合計額は、ファンドの保有期間等により変動し、表示することができないことから、記載していません。

ファンドの関係法人

委託会社	JPMorgan・アセット・マネジメント株式会社(ファンドの運用の指図) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第330号 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
受託会社	野村信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管および管理)
販売会社	委託会社(am.jpmorgan.com/jp)までお問い合わせください。(ファンドの購入・換金の取扱い等、投資信託説明書(交付目論見書)の入手先)

ご購入の際は、「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。

取扱販売会社について

- 投資信託説明書(交付目論見書)は下記の販売会社で入手することができます。
- 登録番号に「金商」が含まれているものは金融商品取引業者、「登金」が含まれているものは登録金融機関です。
- 株式会社を除いた正式名称を昇順に表示しています。
- 下記には募集の取扱いを行っていない販売会社が含まれていることがあります。また、下記以外の販売会社が募集の取扱いを行っている場合があります。
- 下記登録金融機関(登金)は、日本証券業協会の特別会員です。

2025年2月3日現在

金融商品取引業者等の名称	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物取引業 協会	その他
安藤証券株式会社	東海財務局長(金商)第1号	○				
株式会社 イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	関東財務局長(登金)第633号	○				
池田泉州TT証券株式会社	近畿財務局長(金商)第370号	○				
岩井コスモ証券株式会社	近畿財務局長(金商)第15号	○		○	○	
SMBC日興証券株式会社	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○	
株式会社 SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○	
株式会社 SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	関東財務局長(登金)第10号	○			○	
株式会社 SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	関東財務局長(登金)第10号	○			○	
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○	
十六TT証券株式会社	東海財務局長(金商)第188号	○				
東海東京証券株式会社	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○	
野村證券株式会社	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○	
浜銀TT証券株式会社	関東財務局長(金商)第1977号	○				
ばんせい証券株式会社	関東財務局長(金商)第148号	○		○		
ひろぎん証券株式会社	中国財務局長(金商)第20号	○				
マネックス証券株式会社	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○	
丸三証券株式会社	関東財務局長(金商)第167号	○				
三菱UFJ eスマート証券株式会社	関東財務局長(金商)第61号	○			○	
株式会社 三菱UFJ銀行(委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)	関東財務局長(登金)第5号	○	○		○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○	
水戸証券株式会社	関東財務局長(金商)第181号	○				
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	

本資料で使用している指数について

- FTSEグローバルCBインデックスは、Refinitiv(「リフィニティブ」)が発表しており、著作権はリフィニティブに帰属しております。

本資料に関する注意事項

本資料はJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(以下、「当社」という。)が作成したものです。当社は信頼性が高いとみなす情報等に基づいて本資料を作成しておりますが、当該情報が正確であることを保証するものではなく、当社は、本資料に記載された情報を使用することによりお客さまが投資運用を行った結果被った損害を補償いたしません。本資料に記載された意見・見通しは表記時点での当社および当社グループの判断を反映したものであり、将来の市場環境の変動や、当該意見・見通しの実現を保証するものではありません。また、当該意見・見通しは将来予告なしに変更されることがあります。本資料は、当社が設定・運用する投資信託について説明するものであり、その他の有価証券の勧誘を目的とするものではありません。また、当社が当該投資信託の販売会社として直接説明するために作成したものではありません。

投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負います。過去の運用成績は将来の運用成果を保証するものではありません。投資信託は預金および保険ではありません。投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。投資信託を証券会社(第一種金融商品取引業者を指します。)以外でご購入いただいた場合、投資者保護基金の保護の対象ではありません。投資信託は、金融機関の預金と異なり、元本および利息の保証はありません。取得のお申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)および目論見書補完書面をあらかじめまたは同時にお渡しますので必ずお受け取りの上、内容をご確認ください。最終的な投資判断は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。